

第12回ボランティア研修交流会

九月三日(日)朝から強い雨と雷の鳴る中、通院介護センター「さわやか」の第十二回ボランティア研修交流会が始まりました。今年は浮羽郡のぶどう狩りと原鶴温泉に行きました。

朝八時から、ボランティアさん五〇名はそれぞれ小倉駅前と八幡駅前から貸し切りバス二台に乗り込み出発しました。バスの中では江頭会長が「全国の通院介護事業の現在」について話をしました。

現在、全国には、二十五の事業所が設立され、それぞれ苦勞をしながら運営に当たっています。「さわやか」が全国に先駆けて、事業を創設し、全国に普及する基礎を作りました。その基礎を強固にしているのが、ボランティアの皆様です。

土砂降りと雷鳴の中 決行!!

浮羽郡へ「ぶどう狩り」

始まり有意義な時間を過ごすことができました。お酒も入り中にはロレッツの回りな方もいたようです。ボランティアアさん同士の交流にもあちらこちらで花が咲いていました。それから男性は、露天風呂、女性はジャングル風呂と、温泉でゆっくりくつろぐことができました。

再びバスに乗り、近くの「紅乙女酒造」に向かいました。ブドウ畑の間の狭い道を離合する車に気を使いながらやっと到着したときには大型バスや乗用車が、道路に列を連ねて待っている状況でした。「紅乙女酒造」では、焼酎やワインの試飲ができ、みなさん

んは、お気に入りのお酒をお土産に買われていました。中には飲み放題の試飲からなかなか離れられない方がいたようです。

ほろ酔い気分のボランティアアさんに乗せてバスは帰路につきました。

今回の研修交流会は、初めて出席された方がかなりいらっしゃいました。また、第一回目から皆勤されている方もいらっしゃいました。

ボランティアアさんの中には「こんな長くボランティアを続ける事ができるとは、思っていなかった。無理なく気軽にできることがよかったのですよ」と、言ってくくださる方もいました。

ボランティアアさん同士、意気投合して、あちらこちらで話が盛り上がっているのには、私たちスタッフもうれしく思いました。

土砂降りの雨と雷の中での「ぶどう狩り」でしたが、途中では雨も止み、バス二台での第十二回ボランティア研修交流会は、有意義に幕を閉じました。

参加者の皆様、ご苦勞様でした。次回の研修交流会は、十一月中旬に予定しています。

第一回 ボランティアさんインタビュー

『ホノルルマラソン』

館森 由利子さん

「さわやか」のボランティアアさんの中に、ハワイのホノルルマラソンに出場された方がいらっしゃいました。今回はその館森由利子さんにお話を伺いました。

ホノルルマラソンは、毎年十二月に開催され、二万二千人以上の人が走る市民マラソンです。今年で二八回目になります。

館森さんは、一昨年、昨年と二回出場されました。きっかけは、通っているアスレチックジムで「一〇万円でハワイのホノルルマラソンに参加しませんか」と言うパンフレットを見て気軽な気持ちで申し込みました。

練習は、朝五時から自宅近くの、畑貯水池の回りを十五km(二〇km毎日走り本番前には四十二km近く走りました。一昨年のタイムが、初マラソンで四時間十一分、二万二千人中二八八六位でした。五十歳〜五四歳のランナーの中で六〇〇人中一五位で入賞メダルをもらいました。(注館森

さんはなんと五二歳で出場されました。) ゴールしたときに「もうこんなきつい事はやめよう」と思っていました。またマラソンの季節になると走りたくてうずうずしてきて、走ることがストレス解消になっていくと気がつきました。

ボランティアを出来る事がうれしい

松本 勝さん

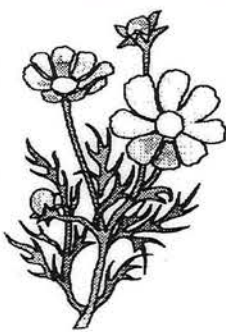
七月二十五日より通院介護のお手伝いをさせて頂いたようにになりました。送迎をし

ている方は女性で全盲の方です。いつもお母さんが付き添っておられます。色々、見ておられますが大変仲のよい親子ですが、初めの一〜二年は、いらいらしていることが多くお母さんも大変だったようです。私も透析を始めてもうすぐ八年になります。体がきついたので、妻にあたっていました。今では、ボランティアをしていて、少しでも誰かの為になれている事が大変嬉しく思います。

編集後記

前月号でお知らせのように「さわやか新聞」の編集を今回号から江頭会長より私たちが「さわやかレディーズ」へとバトンタッチしました。楽しく、読みやすい新聞作りに努力して参ります。

又、いろんなご意見等お寄せ下さい。よろしくご協力をお願いします。





ボラ研 エピソード集

ぶどう狩りに来て 梨を買った人

ぶどう園では、雨を予期して、庭にテントを張って、事前にぶどうをバック詰めしていました。ところがお客が多く売り切れになり、ぶどうは買えず梨を買う羽目になった方がいました。ゴメンナサイ。

雷鳴と大雨に、 全員ガクツ

バスは高速に乗り一路目的地に向かって進んでいます。八幡駅前を出発するときには、小降りになっていた雨が福岡市を過ぎると、急に雨雲が立ち込め、浮羽郡の真上が最高に暗くなっていました。土砂降りと雷鳴に向かってバスは走っている。全員が本当にぶどう狩りができるだろうか…。

水もしたたる…

ぶどうが売り切れたと、ぶどう畑に入り、ビショ濡れになって、ぶどう狩りをした女性もいました。水もしたたるいい女といいますが、ずぶ濡れの女では、絵になりません。

酒のみにはこたえ られん“試飲”

「紅乙女酒造」で、試飲がふんだんにできます。誰とはいませんが、ボランティアさんの中に、酒に目がないう人がいます。「〇〇さんは、試飲の前でへばりついて飲んでいたよ」と江頭会長。そりゃ大変と、「さわやか」のコーディネーターが、飛んで行くと案の定、グビリグビリと出発時間もなんのその。曰く「会長、少しくらい遅れでもいいでしょう。スママセン。」

京料理の気分味わう

泰泉閣に、30分ほど早く着きました。ぶどう狩りが出来なかったのも、まだ屋食の準備が完全にできていない内から、乾杯をして、屋食を始めました。準備中にはじめたので、次から次へと料理が出てきて、京都の御膳を食べているような気になりました。あの料理が一遍に全部並べられていたら、食べる気がしたでしょう。

雨漏りがした。 バス代まけろ!!

二号車を見ると、後ろ座席に、傘を逆さまにしてあるのが見えます。「どうしたの」と聞くと、「後ろのバスは雨もりがしている」との返事。翌日、二号車の人に聞くと「クレーターの水がしたたっていたので、雨漏りではないヨ」とのこと。ところが、バス会社に電話して、「雨漏りがしていたので、バス代金をまけろ」と交渉した人がいます。その結果バス代が安くなったそうです。「さわやか」研修が安上がりにはできるのは、このような目に見えない努力があるのです。並の人間では出来ないことです。

